

指定管理者評価シート

事業名	札幌市豊平川さけ科学館運営維持管理業務	所管課(電話番号)	建設局みどりの推進部みどりの管理課(2536)
-----	---------------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市豊平川さけ科学館 ①本館 ②学習棟 ③実習棟	所在地	南区真駒内公園2-1
開設時期	①昭和59年10月2日 ②昭和61年11月11日 ③平成15年3月31日	延床面積	①579.2㎡ ②121.5㎡ ③220.61㎡
目的	豊平川におけるさけの回帰事業を通して生物や自然環境の保全に関する知識の普及啓発を行い、自然の豊かな都市環境の形成に寄与する。		
事業概要	さけのふ化並びに成長過程を観察する場の提供、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示、さけに関する学習の指導及び豊平川におけるさけの回帰に関する事業		
主要施設	本館、学習棟、実習棟		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市公園緑化協会		
指定期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日		
募集方法	公募 非公募の場合、その理由：		
指定単位	施設数： 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	さけのふ化及び成長過程を観察する場の提供に関する業務、豊平川におけるさけの回帰に関する業務、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示とさけに関する学習の指導に係る業務及び環境教育に資するイベントの計画実施業務		
3 評価単位	施設数： 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 令和7年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 当団体の運営方針である、公平・公開・効率・協働・環境・景観の《公益性「6つのK」》を基に、以下の①～⑤に示す《管理運営の基本方針》を策定し、さけ科学館管理運営における基本方針1.～4.を策定した。 ① 平等・公平な利用の機会を確保し、さけ科学館の公共福祉増進の場としての利用効果を高める。 ② 関係法令・条例等を遵守し、さけ科学館の利用者や市民の声の反映に努め、開かれた管理運営による安全で安心、快適な利用環境を提供する。 ③ さけ科学館の資源・施設の長寿命化を念頭に置き、効率的な管理運営による経費削減を図り、安定した質の高いサービスを提供する。 ④ さけ科学館を環境教育のコミュニティ活動の拠点と位置付け、市民や団体、関係諸機関との連携・協働を推進し、集いの場としての魅力を高める。 ⑤ 都市における多様な環境圧の下、みどりの保全と環境負荷の低減、良好な景観の保全・創出を目指します。 1.豊平川のサケの遡上数及び産卵床数のモニタリング調査を継続することで、豊平川での持続的なサケの回帰を図りつつ、自然産卵による野生魚を増やす取組を進めます。 2.札幌市内の水辺環境とそこに生息する水生生物について、飼育展示や解説、体験学習、出前授業等を通して広く普及啓発に努め、自然豊かな都市環境の形成に寄与します。 3.専門的な知識・技術を有する飼育員を配置し、多種の飼育生物それぞれに合わせて効率的かつ動物福祉に配慮した飼育管理を行います。 4.札幌市内のサケや水生生物の生息調査を継続し、その結果を市民や関係機関等に公表することにより、生物多様性や河川環境の保全につなげます。	子供から大人までの各年齢層を対象にしたイベントを企画し、幅広い年齢層の利用促進に努めた。お客様の意見や要望をできる限り取り入れ、公平性と平等性を適切に確保し、団体や学校からの解説案内や実習、博物館での実習依頼には可能な限り応じ、環境教育の拠点としての役割を果たした。管理運営においては、関連する法令を厳守し、適切な利用環境を提供した。 サケや淡水魚の観察会では、サケに加えて札幌周辺の水辺の生物の現状や外来種についても積極的に啓発活動を行った。河川調査の際には、市民に積極的に声をかけて解説を行い、近隣住民と意見交換をするなど、様々な場面での取り組みを進めた。また、出前授業等を通じて、札幌の水辺環境の保全についての啓発活動を行った。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td colspan="4">基本方針の実現に対して適正に取り組んでいること及び、関係諸機関と協働した積極的な環境教育の普及活動を評価します。今後も法令を遵守し、質の高いサービスと平等利用の実現に努めてください。</td></tr></table>	A	B	C	D	基本方針の実現に対して適正に取り組んでいること及び、関係諸機関と協働した積極的な環境教育の普及活動を評価します。今後も法令を遵守し、質の高いサービスと平等利用の実現に努めてください。			
A	B	C	D								
基本方針の実現に対して適正に取り組んでいること及び、関係諸機関と協働した積極的な環境教育の普及活動を評価します。今後も法令を遵守し、質の高いサービスと平等利用の実現に努めてください。											

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 年齢や障がいの程度、性別、主義・主張、思想・信条、民族や言語、社会的地位や身分の違い等によって、さけ科学館の平等利用が妨げられないよう、また、利用者に不公平感を抱かせることのないよう、徹底したスタッフ教育による管理運営を行った。 ・障がい者の利用機会の確保に努めた。 ・子育て層が快適にさけ科学館を利用できるよう、授乳希望者への案内・対応を実施した。また、ミルクのお湯の提供も行った。 ・苦情・要望・提案等の申し立てによって差別が生じないよう、スタッフ教育の徹底に努めた。 ・施設利用に関する情報収集を常に行ってスタッフ間で共有し、館内掲示板やホームページにより、必要な情報をリアルタイムで発信した。 ・さけ科学館で実施するイベントやプログラムの情報、河川のサケ観察情報、施設利用情報など、利用者のニーズに的確に応える情報提供を行った。 ・団体利用の連絡情報に基づいて管理作業のスケジュールを調整するとともに、利用者が過度に集中しないよう、利用日時の調整を図った。 ・さけ科学館の管理者側の一時的な事情により、利用者が展示物の見学や体験等の機会を逃すことのないよう、きめ細かい情報発信を行った。 ▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 令和6年から北海道環境マネジメントシステムスタンダード(HES)〔ステップ1〕を返上し、当協会独自のEMSを運用することにより、環境負荷の低減に向けた各種取組を実施した。 ・光熱水の使用及びごみの排出について、それぞれ削減に努めた結果、前年度比で、LPガスは105.2%、水道は102.8%、一般ごみ排出量は99.7%、電気使用量は97.9%、となった。 ・「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」の拠点施設として参加しており、今後も身近な水辺の生き物を通じて札幌の生物多様性保全への関心が高まるよう、取組みを進めた。 ・EMSの環境目標のひとつであるノー残業デーの超過勤務時間について、前年度実績を上回らないことを目標として取り組んだ。野外調査業務においては、天候・河川増水状況等を見ながらスケジュールを設定する必要があるため、業務に支障が出ない範囲内で取り組むように努力した。 ・環境に関する自覚教育を9回実施した。 ▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成) ・統括責任者、統括責任者代理を配置した。 ・年度当初に業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を確認した。 ・当初の研修計画に基づき、研修を実施した。その他飼育技術等に関する外部の研修会・会議に参加し、さけ科学館に必要な知識・スキルの取得に努めた。	全スタッフの研修と指導を通じて、平等で公平な利用機会を適正に確保した。また、館内利用やイベント開催時、苦情対応時には、差別や特別扱いがないように注意をし、適切な対応に努めた。イベントチラシやホームページ、SNS、館内掲示等を活用して、施設やイベント等の最新情報を広く提供できるよう努めることができた。 一般ごみ・電気使用量は、意識を持って節減・節約に努めた結果、使用量を削減することができた。LPガスは魚病防止のために念入りに器具の消毒をしていた結果、使用量が増えた。水道使用量は入館者数の増加に伴い僅かではあるが増加した。今後も無理のない範囲内で、スタッフ全員で改善・削減への取組みに努めていきたい。生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの生物多様性推進事業「外来種対策」のアズマヒキガエル及びウチダザリガニ防除等に協力し、外来種を広げないための普及啓発をすることができた。 全スタッフで「日曜日はノー残業デー」という意識を持ち、業務の効率化を図り、エネルギー使用量削減に繋がることを意識して、対応可能な範囲で今後も取り組んでいく。 管理運営体制を整え、問題なく適切に業務を実施できた。研修等は予定通り実施し、お客様への対応や電話問合せ、飼育管理に役立てることができた。	平等利用の実現に向け、スタッフの意識の向上と施設の情報提供を行っているものと評価します。引き続き丁寧・親切な対応を心がけ、要望・意見・苦情等には適正に対応していただきたい。 適切に実施されています。昨今の電気及び燃料費の高騰による維持管費の増加を抑えるためにも、節電等の取り組みは必須と考えられるので、引き続き取り組んでください。
---	--	---

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組 ・来館者の快適性の向上、及びスタッフを含めた安全性の確保のため、危険予測(KY)・ヒヤリハット収集票を作成し、スタッフ全員で情報を共有し、作業手順の改善に役立て、事故防止に努めた。 ・草刈り機・除雪機等の作業機械を使用する際は、研修以外にもスタッフ全員に対して口頭により指導を実施するなど、安全確保の取組みを適切に実施した。また、ニュース等で除雪機により事故があった際は、朝礼で内容を共有し、事故を未然に防ぐように努めた。 ・サケ稚魚餌付けの際は、寄生虫が稚魚体表に付きにくくする「サーモンリキッド」を添加した餌を給餌した。	来館者やスタッフに事故や労働災害は発生はなかった。他の公園での業務災害については、団体全体で情報を共有し、迅速かつ適切に再発防止策を講じた。朝礼では、車両を使用する日や交通安全週間に合わせて、通勤時を含めた運転の注意喚起を定期的に実施し、車両使用前にも口頭で注意を促した。今後も全スタッフで安全確保に努め、来館者の事故や労働災害を防ぐため、気を引き締めて業務に取り組む。 サケの稚魚には「サーモンリキッド」を点火した餌を与え、寄生虫がつきにくくなり、健康な稚魚を放流することができた。	スタッフの意識向上に努め、団体全体で安全性の確保に向け取り組んでいることを評価します。						
▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認) 定期清掃、日常清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、自動ドア保守点検、温風暖房機保守点検、建築物法定点検、駐車場・園路除雪の業務については第三者に委託し、仕様書の通り適切に実施した。	施設・設備等の委託業務は、仕様書の通り適切に実施した。	適切に実施されていることを評価します。						
▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催) ・さけ科学館ボランティアの会(登録者数15名)では、イベント・飼育補助、施設管理補助等の活動を行った。 ・さけ科学館・河川管理者・行政・大学の研究者・企業が運営する「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」の活動として、豊平川の野生サケを優先的に保全し、サケやその他魚類の生息環境の改善等を検討し、サケ遡上数が大きく減らないよう放流数をコントロールする「順応的管理」を導入し、豊平川に回帰するサケ親魚のモニタリング調査、サケ稚魚降下調査等を共同で実施した。また、「札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム2026 今どうなっているの?気候変動の影響を受けるサケマスたち」では、本州・三陸サケの今」、「知床の森と海をつなぐカラフトマスの今」、「札幌のサケとサクラマスの今」の講演ののち、パネルディスカッションを行なった(参加者125名)。 ・近年、道内で分布を広げている国内外来種のアズマヒキガエルは、令和元年には札幌市南区内での大量発生、繁殖が確認され、在来の両生類など地域の生態系に与える影響が懸念されており、早急な対応が求められることから、市民への外来種問題認知の促進活動に加え、市民団体「かんガエル」・市環境共生担当課への情報提供、調査や防除などの面で協力した。 ・豊平川水系に生息している特定外来生物ウチダザリガニの発生源を調べるため、北海道大学・市環境共生担当課・円山動物園・北海道自然環境課・環境省北海道地方環境事務所と共同で分布域調査及び計測作業を実施した。	ボランティア活動を積極的にサポートし、飼育管理補助や水辺の生き物観察会やサケ稚魚体験放流・さけフェスタ等において活躍していただいた。 札幌ワイルドサーモンプロジェクトの活動として行っている野生サケの保全活動は、準認定施設のさけ科学館の管理運営方法として貴重な取り組みであった。今後についても継続的に活動を行っていきたい。また、市民フォーラムでは、市民がサケを取り巻く生育の環境について考えるきっかけづくりができた。 アズマヒキガエル及びウチダザリガニアズマヒキガエルは、地域の生態系に与える影響が大きいことから、今後も積極的に協力をし、普及啓発活動にも力を入れて実施していく。 今後も地域の団体等からの協力依頼や連携行事に対しては、今後も可能な限り協力するように努める。	地域との連携・協働が積極的に行われていることを評価します。						
<table><tr><th>開催回</th><th>協議・報告内容</th></tr><tr><td>運営協議会 3月12日</td><td> ・管理業務の実施状況について ・管理運営上の問題点、設備等の改善提案 ・サケ飼育マニュアルについて ・サケを取り巻く話題の提供 ・石狩川流域ネットワーク推進協議会について </td></tr><tr><td colspan="2"><協議会メンバー> 札幌市みどりの管理課(係長・担当職員) 公園維持係(係長・担当職員) 事業1課長・さけ科学館館長(マネージャー)・主任(サブマネージャー)</td></tr></table>	開催回	協議・報告内容	運営協議会 3月12日	・管理業務の実施状況について ・管理運営上の問題点、設備等の改善提案 ・サケ飼育マニュアルについて ・サケを取り巻く話題の提供 ・石狩川流域ネットワーク推進協議会について	<協議会メンバー> 札幌市みどりの管理課(係長・担当職員) 公園維持係(係長・担当職員) 事業1課長・さけ科学館館長(マネージャー)・主任(サブマネージャー)		運営協議会に限らず、日常的に所管部署と緊密に連絡を取り合うようにした。北海道開発局、市環境共生担当課、環境省北海道地方環境事務所、市河川事業課、水産研究・教育機構水産資源研究所、札幌ワイルドサーモンプロジェクトなどと、河川の状況やサケ・水生生物の分布状況について情報を共有するよう努めた。	
開催回	協議・報告内容							
運営協議会 3月12日	・管理業務の実施状況について ・管理運営上の問題点、設備等の改善提案 ・サケ飼育マニュアルについて ・サケを取り巻く話題の提供 ・石狩川流域ネットワーク推進協議会について							
<協議会メンバー> 札幌市みどりの管理課(係長・担当職員) 公園維持係(係長・担当職員) 事業1課長・さけ科学館館長(マネージャー)・主任(サブマネージャー)								

	▽ 財務(資金管理、現金の適正管理) ▼資金管理については、指定管理業務や自主事業等、公園ごとに区分している。 ▼当協会の規定に基づき、現金や金券類、預金通帳等の施錠管理や帳簿類の内部監査を年2回実施しているほか、公認会計士事務所による外部監査を導入している。 ▼現金等の取扱いに関しては、現金取扱規定を整備しており、管理体制の強化及び不祥事防止の取組みを行っている。 ▽ 要望・苦情対応 さけ科学館の施設やサービス、維持管理についての苦情等の情報については、苦情等対応報告票に記録して組織で共有する手順を整えている。 令和7年度の苦情は無かった。 ▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) ▼ アンケートは、来館者及び各種体験等の参加者を対象に実施し、分析結果を札幌市へ報告するとともに、職員間で供覧して共有し、改善点等を次回の事業や管理運営に反映させた。 ▼ 施設の管理運営についての自己チェック・評価を実施した。	不正行為や事故発生の未然防止のため、複数名による現金等の確認を徹底した。 不正経理等はなく問題はない。 お客様から、感謝やお褒めの言葉をいただくことが多く、スタッフやボランティアの意欲向上に繋がった。 R7年度は苦情はなかったが、今後も引き続き、お客様が満足できる対応を行う。 要望・意見・苦情等に関しては、改善の機会ととらえ、今後も計画した手順に従い、適正に対応する。 館内・各種体験のアンケートでは満足度で高い評価が得られた。自由記述の意見・要望についても改善の材料とし、今後お客様が満足できるように努める。 指定管理の計画・提案内容の履行状況を定期的にチェックすることで、目標に向けた管理運営を適正に遂行できた。	適切に実施されています。今後も、不正行為等を未然に防止するための取り組みを徹底し、適切な資金管理に努めてください。 苦情の発生はなく、対応手順が適切に整備されている点进行评估します。今後とも、寄せられた要望や意見、苦情等に対しては、定められた手順に基づき、引き続き適切な対応に努めてください。 適切に実施されていることについて評価します。								
(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む) ▼ スタッフの雇用に関して、労働基準法、最低賃金法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、健康保険法・厚生年金保険法、雇用保険法、労働契約法、男女雇用機会均等法、次世代育成支援対策推進法、女性活躍推進法、育児休業・介護休業等に関する法律、労働保険の保険料の徴収等に関する法律、その他関連する法令等に基づき、主として以下のような届出・対応等を行った。 ・全てのスタッフに対し、北海道最低賃金1,010円(令和6年10月1日発効)以上の時給を支給した。 ・施設で働く職員に対し、時間外労働・休日労働及び深夜残業をさせた場合、それぞれ法定割合以上の割増賃金を支払った。 ・就業規則・要綱の改正を行い、札幌中央労働基準監督署に適切に届け出た。 ・全スタッフの就業時間や休日等について、労働基準法を遵守した。 ・スタッフに時間外労働又は休日労働をさせるにあたり、書面による労使協定(36協定)により必要な定めをし、札幌中央労働基準監督署に届け出た。 ・全てのスタッフを労災保険適用とし、条件を満たすスタッフを雇用保険に加入させた。 ・労働保険料等算定基礎賃金等の報告を北海道労働局へ提出し、労働保険料を納付した。 ・スタッフの勤務形態、家族状況等に応じて健康保険・年金保険資格を取得するよう、適切に届け出を行った。 ・年1回の定期健康診断及びストレスチェックを実施した。 ・短時間雇用管理者を選任し、北海道労働局へ届け出た。 ・有期雇用契約者のうち、無期転換申込権が発生した者に対して周知し、希望の申し込みを随時受け付けた。 ・次世代法及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を公開・周知した。 ・女性活躍推進法に基づく認定制度「えるぼし」において、女性の活躍推進に関する状況等が優良な団体として「認定段階3」を受けたことを周知した。 ・安全衛生委員会を設置し、毎月1回、各公園の担当課長が出席して委員会を開催し、職場の安全確保及び健康障害の防止に係る議題について検討し、その結果を各公園・施設のマネージャーを通してスタッフに周知して、健全な職場環境の実現に努めた。 ・維持管理作業従事者を対象に、作業における安全確保や機械の取扱いに関する講習を実施した。	指定管理施設の現場と本部事務局との連絡調整を密にするとともに、関係機関への必要な届出を迅速かつ確実に行うなど、労働関係法令を遵守し、すべての関係手続きについて適切に対応できた。 当団体での労働災害発生ゼロを目指して、毎朝のKY活動、ヒヤリハット事例の共有、安全大会の開催、安全講習の実施等に取り組んだ。 事故が発生した際には、安全衛生委員会において、原因検証と再発防止の検討を実施し、安全な職場環境の実現と、スタッフの雇用環境の向上を進めるなかで、市民サービスの向上につなげることができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法令順守や雇用環境の向上に努め、適切に対応していることを評価します。安全な職場環境を維持するため、労働災害の防止についての活動は今後も継続してください。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	法令順守や雇用環境の向上に努め、適切に対応していることを評価します。安全な職場環境を維持するため、労働災害の防止についての活動は今後も継続してください。			
A	B	C	D								
法令順守や雇用環境の向上に努め、適切に対応していることを評価します。安全な職場環境を維持するため、労働災害の防止についての活動は今後も継続してください。											

	・ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、育児休業等の取得奨励、職場内コミュニケーションの活性化、有給休暇取得の奨励、ノー残業デーの設定などの取組みを行った。 ・公的資格の取得支援、接遇や安全・技術等に関する内部研修の実施、優秀なスタッフや高齢者の継続雇用など、雇用環境の整備により、市民サービスの向上等に結びつく取組みを行った。 ・第三者への委託業務について、受託者に当該業務従事者の労働環境に関わる情報提供を求めた。 ▼ 正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から3名が正規職員となった。 ▼さけ科学館における労働災害発生 1件 ・8/23(土)に、職員が餌の魚の処理中に「マキリ(包丁)」で指を切る事故が発生した(札幌市へは報告済み)。	8/23(土)に発生した事故については、当日及び8/24(日)に全スタッフとミーティングを行い、安全対策について(滑らないように必ず手袋着用し、刃先の確認をするように指導した)。	
(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) ・維持管理業務の実施時には、施設の利用の支障にならないよう配慮するとともに、利用者に対し十分に案内するよう努めた。 ・真駒内公園駐車場止め付近にさけ科学館の電話番号を表示し、緊急時に利用者が通報しやすい環境を整えた。 ・作業機械を使用する前に安全教育を実施し、安全な使用方法や危険予測等について教育をした。 ・緊急時のスタッフ間の連絡手段として、携帯電話による迅速な連絡が可能な体制を取った。 ・さけ科学館における拾得物の取扱い、遺失物法に基づき適正に行った。 ・管理業務の実施に際して、当協会の過失等により札幌市または第三者等に損害を与えた場合に備え、仕様に適合した損害賠償責任保険に加入した。 ▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) ・定期清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、駐車場・園路の除雪については、第三者への委託により適切に実施し、仕様書の水準に達した。なお、一部日常清掃はスタッフで行い、経費削減に努めた。 ・4/3(土) 井戸ポンプ(No.1)小学校側が過負荷のため故障した。水量が減少する事により、飼育魚が健全に飼育できなくなるため、市においてポンプ交換作業を実施した。 ・4/24(木) さかな館で使用しているFF式温風暖房機が、エラー表示が点灯し動作しなくなったため、修繕費が10万円以下のため、協会において分解修理を実施した。 ・10/28(火)～31(金) さけ科学館本館・飼育展示室の床板が、湿気による経年劣化のため歪みが生じています。また、床板がへこみ割れる可能性があり来館者が怪我をする恐れがあることから、床板の修繕を実施した。 ・3/5(木) 近年、水道管の漏水により陥没事故が多発しているため、設置から30年以上経過している井水管の漏水調査を市で行い、漏水が無い事を確認した。 ・3/16(月) 飼育展示室内では、気温および湿度の大幅な上昇により、低水温で飼育している水槽の外面に結露が発生している。さらに、壁や天井には黒カビが生じるなどの問題が発生し、展示の閲覧や生き物の観察に支障をきたしている。加えて、来館者の熱中症リスクも懸念される状況にある。このため、市において飼育展示室へのエアコン設置を実施した。	敷地内での作業の際は、声かけや周囲に気を配り、作業車両使用時には二人一組で対応するなど、お客様への安全配慮を最優先として作業を実施した。 除雪機や草刈り機等の使用については、シーズン前に安全教育を実施し、報道等で事故があった際は、その都度注意喚起した。 拾得物の取扱い、遺失物法、当協会の規定、及び南警察署の指示に基づき、適正に対応した。 今後お客様が安心して施設を利用できるように努める。 重要な設備等については、札幌市と適切に情報共有した上で、定期点検のほか日常的な自主点検・記録により、突発的なトラブルの予防に努めた。 井戸ポンプ(No.1)の故障については、井戸ポンプ(No.2)が正常に移動していたことから、各水槽への給水量を適切に調整し、飼育魚への影響を最小限に抑えつつ対応し、問題なくポンプの交換を実施することができた。 軽微な修繕等は直営または当協会他公園の協力で対応し、経費削減につなげた。 今後も設備の知識を深めて経費削減、応急処置ができるように努める。	A B C D 利用者の安全確保を優先した作業実施、緊急時の連絡体制などの配慮がなされていることについて評価します。また、軽微な修繕や日常清掃等を行い経費削減に努めていることについて適切な対策がなされていることについて評価します。今後とも、利用者の安全・安心に配慮した維持管理に努めてください。

	▽ 防災 ・利用者の安全・安心を最優先し、危機管理対策・対応については「予防・未然防止対策」、「初動処置・対応」、「再発防止・対応改善対策」の3段階に区分し、各段階において対策を行った。 ・年度の防災計画を策定し、4月に火災・地震・強風等への対応訓練、3月に融雪期の周辺状況を把握した避難・誘導の消防訓練を実施した。	火災・地震・強風への対応訓練を実施した。3月に融雪期の周辺状況を想定した消防訓練を実施した。全スタッフと状況を共有し、災害の際に起こりうる事態と対応についてはスタッフ全員で話しあった。また、地震への対応として地下観察室の観察窓が破損した際に浸水が想定されるため、地震が収まった際、いち早く利用者がいないか確認行くことをスタッフ全員と共有した。台風等による強風で落ち枝・倒木等の被害について、隣接する河川敷地でも発生する可能性があるため、管理範囲外ではあるが安全確保が保てる体制をとるようにした。	適切に実施されています。今後も、防災に備えた体制の確保に努めてください。
(4)事業の計画・実施業務	▽ さけ科学館における普及啓発事業 ・サーモンスクール放流式 89人(計画80人) ・サケ稚魚体験放流 2回2,094人(計画2,000人) ・わくわく体験(エサやり) 6回57人(計画150人) ・知る・みる・カニさん・ザリガニさん 52人(計画50人) ・両生類のエサやり体験 5人(計画4人) ・知る・見る・カエルさん 42人(計画50人) ・みんなのサケの絵展 63点(計画60点) ・さかなウォッチング 3回 59人(計画75人) ・さっぽろサケフェスタ 734人(計画1,000人) ・真駒内川サクラマス観察会 6人(計画10人) ・ヤマメ釣り体験 32人(計画60人) ・サーモンウォッチング・観察会 3回168人(計画200人) ・サケの採卵実習 20人(計画25人) ・サケの人工授精体験 140人(計画90人) ・札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム 125人(計画100人) ・サケ飼育員の解説ツアー3回 9人(計画15人) 計3,695人(計画3,969人) ※一部実習は事前申込み制とし、応募者多数の場合は抽選で参加者を決定した。 ▽ さけ科学館の業務に関する情報収集及び提供業務 ・水産資源研究所等の研究機関が発行する文献や、ホームページで公表される情報を収集してスタッフで供覧し、展示・解説案内に反映させた。 ・業務上有益な研修会・会議等には可能な限り出席するように努めた。 ・7/18(金) リサーチセミナー「都市河川豊平川における地下水・サケも含めた生態系構造」に出席 ・8/5(火) 令和6年度さけます報告会に出席 ・11/10(月) 市民動物園会議「円山動物園動物福祉部会」に出席 ・11/13(木) 河川生態学術研究発表会に出席(オンライン) ・11/22(土)~23(日) サケ学研究会に出席(オンライン) ・11/29(土)~30(日) 第46回魚類系統研究会出席及び「琴似発寒川のサクラマスに関する取り組みの成果」の発表 ・2/25(水) 円山動物園より、第1回生物多様性保全連携協議準備会の出席依頼があり、さけ科学館の取組状況を報告	R7年度の夏季に開催された実習は、熱中症に注意をし、時間短縮や中止なども視野に入れて、お客様の安全を第一に考えて実施した。 「さっぽろサケフェスタ2025」では館内クイズラリーなど各ブースとも好評であった。また、連携事業としてサンピアサ水族館の協力を得て、同館で展示されている古代魚の出張展示を実施した。通常当館では見ることのできない魚類の展示であったことから来館者の関心を集め、好評を得るとともに、両館のPRIにつながる取組となった。申込が必要なさかなウォッチングは、雨天順延したため、参加者数が減少した。 文献等の情報共有により、利用者への適切な案内・回答につなげることができた。回答をする際は分かりやすい説明をするように心掛けた。 Zoom等を使用したオンラインにおいて、業務上有益な会議・研修会等に積極的に参加し、得られた最新の研究成果等は、お客様への解説に役立てることができた。	A B C D 適切に普及啓発に努めているものと判断し、特に参加者の満足度の高さを評価しています。今後も、より多くの方が興味を持ち、参加してもらえるような事業を計画してください。 外部の研究成果等の情報を積極的に収集し、業務に係る新たな知見を得ることで利用者サービスの向上につなげているものと評価します。

	▽ 生物に関する相談業務 ・生物の飼育・生態等に関する質問・問合せ等は計216件あり、それぞれ適切に回答したほか、必要に応じて資料の送付・書籍・専門家の紹介等を行った。	サケやサクラマスのほか、水辺の生き物全般にわたって様々な質問を受け、解りやすい適切な回答を心掛けた。 今後も書籍や関連資料等を収集し、また、水辺の生物を中心に、研修会や会議にも可能な限り出席して、分かりやすく回答ができるように努める。	専門知識を活用した丁寧な相談対応により、市民の理解促進に適切に貢献している点を評価します。今後もこの体制を維持し、質の高いサービスを提供してください。																								
(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 <table><tr><td>入館者数</td><td colspan="2">54,215</td><td>人</td></tr><tr><td>解説案内・学習対応</td><td>59 件</td><td>1,980</td><td>人</td></tr><tr><td>外部依頼の実習等対応</td><td>59 件</td><td>3,836</td><td>人</td></tr><tr><td>ボランティア活動(のべ)</td><td>111 日</td><td>175</td><td>人</td></tr><tr><td>図書貸出</td><td>15 件</td><td>26</td><td>冊</td></tr></table> ▽ 利用促進の取組 ・マスコミ取材の際には、イベントの告知を入れてもらうよう依頼するなど、利用促進に繋がるように努めた。 ・講師や実習、展示などの依頼については、可能な限り受け入れ、さけ科学館のPRに努めた。 ・6/29(日)に、サンピアザ水族館との連携事業「両生類を知ろう!!」に参加し、館スタッフがサンピアザ水族館来館者に、在来種のカエルの解説や質問に対応した。来館者への解説対応を実施した。また、さけ科学館PR活動も行い、館にはサケだけでなく色々な水生生物が見られることを伝え、館の利用促進に努めた。 ・9/28(日)に、エスコンフィールドで開催された北海道日本ハムファイターズとの連携業務「しゃけまる水族館」では、計10,000人の来場者で大変賑わい、多くの来場者にさけ科学館のPR活動を行うことができた。	入館者数	54,215		人	解説案内・学習対応	59 件	1,980	人	外部依頼の実習等対応	59 件	3,836	人	ボランティア活動(のべ)	111 日	175	人	図書貸出	15 件	26	冊	入館者数は54,215人(前年度52,105人)で、前年より増加した。来て頂いたお客様に満足していただけるよう、スタッフ全員で親切な説明・解説を心掛けた。 マスコミ等の取材時は、イベント告知をしてもらえるよう要請し、さけ科学館のPRに努めた。近年は、外部依頼の実習・展示協力が増えており、入館者数だけでは評価できないさけ科学館の利用が多い。外部への講師の派遣は、さけ科学館のPRにも繋がるため、可能な限り受け入れるように努めた。 引き続き利用促進に取り組んでいく。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr></table> 利用促進に対する努力について評価します。 市の広報にとどまらず、マスコミや独自チラシ等を活用した積極的な周知活動を展開したことや、外部との連携事業を推進した点を評価します。今後も、さけ科学館のさらなる知名度向上と利用促進に向け、効果的なPR活動に努めてください。	A	B	C	D
入館者数	54,215		人																								
解説案内・学習対応	59 件	1,980	人																								
外部依頼の実習等対応	59 件	3,836	人																								
ボランティア活動(のべ)	111 日	175	人																								
図書貸出	15 件	26	冊																								
A	B	C	D																								
(6)付随業務	▽ 広報業務 ・イベント情報は、さけ科学館ホームページや館内掲示のほか、市広報・マスコミやその他の関係団体などを通じて提供し、PRに努めた。 ・ホームページは随時手直しをして利用し易さを改善し、サケ観察情報など最新情報の掲載に努めた。 ・メールフォームの活用 公式ホームページ内のメールフォームから来る問合せに即時に対応した。 ・facebook、X、Instagram ツールの特性を生かし、利用時のお願いを都度アップし、ダイレクトメールでの質問に即時返答するなど、館の管理運営への理解を深めていただくよう努めた。 ・館ホームページのウェブアクセシビリティ研修を担当職員対象に実施した。 ・令和7年度のホームページに155,998件のアクセスがあった。 ▽ 引継ぎ業務 前回から継続指定を受けており、引継ぎ業務はない。	イベント情報については、マスコミの別件取材の際にも、掲載依頼するなど広報を実施し、利用者増につなげた。 館外でのイベント等では、さけ科学館のPR活動を行い、利用促進に努めた。 ホームページ及びSNS等では、最新の情報発信に努め、利用者が情報を得る手段としての利用増に繋げるよう努力した。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr></table> アクセス数が年々増加しているホームページでの積極的な情報発信や、館外でのPR活動など、高い広報意識を評価します。今後も情報発信の場を広げ、新規利用者の増加につなげてください。	A	B	C	D																				
A	B	C	D																								
2 自主事業その他																											
▽ 自主事業 ・売店営業 ・自販機設置 ・自主事業申請イベント開催数10件(その他のイベント等は本来業務) ・外部に対する講師派遣、展示協力、調査研究協力等対応 134件 ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ・定期清掃などの第三者委託業務は、市内企業に発注した。 ・売店商品の一部は、「元気ショップ いこ〜る」等から仕入れた商品を販売した。	自主事業の実施に際しても、当協会が運営方針に掲げる6つのK(公平・公開・効率・協働・環境・景観)を念頭におき、冒頭に示した事業目標と上記の考えを反映させ、利用者サービスを第一に考えて事業を展開した。 売店では、就労支援施設等で製作されたサケにちなむ小物などを販売し、好評を得られた。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr></table> 今後も利用者ニーズの把握に努め、より多くの方が興味を持ち、参加してもらえるような事業を計画してください。 市内企業の優先活用や福祉施策への配慮がなされていることを評価します。	A	B	C	D																					
A	B	C	D																								

3 利用者の満足度			A	B	C	D
▽ 利用者アンケートの結果						
実施方法	館内にアンケートボックスを設置した。また、イベントでアンケートを実施した。		総合満足度・接遇に関する満足度ともに、全スタッフが親切・丁寧に対応した結果、93%以上の非常に高い評価を得られることができた。 今後もお客様から貴重な意見の徴収の機会としてアンケートを実施し満足度の向上に繋げていきたい。			
結果概要	・総合満足度:95.5% (回答数355件、市要求水準70%) ・接遇に対する満足度:93.4% (回答数331件、市要求水準80%) ・各種体験等に関する満足度:96.5% (回答数550件、市要求水準80%)		各種体験等に関する満足度は550件の回答に対して、96.5%の高評価の満足度となった。 今後についても新しい企画を検討と既存イベントの充実を図り、来館者・イベント参加者の満足度を高めるように努力する。			
利用者からの意見・要望とその対応	【意見】(自由記述欄の抜粋) ・いろいろなサケがいてみていて楽しいです！！そして勉強にもなります。(個人的にアルビノさんが大好きです)また来ます！！ ・サケの一生について分かりやすくて良い ・名前の通りサケ属の生物が何種も展示されていて良かった。サケにエサをやれるのが貴重。 ・はじめて放流に参加しました。千歳水族館の放流しか知らなかったの、今回参加できて良かったです。友人や職場でも知らない方が多く、もっといろいろな人に知ってもらえたらいいのと思いました。 ・水族館とは違う身近な魚を見る機会があって良かった。 ・鮭以外の生き物が多くいてびっくり。ありがとうございます。とても勉強になりました。 ・さかな館で座れるイスが欲しい ・鮭トバとか売って欲しい。食べ比べもしてみたい。 ・放流の魚2匹だけは少なかったです。 ・飼育展示室の稚魚が泳いでいる水槽を小さい子供上からのぞけるようにしてくれると嬉しい。 ・個別に分けて展示してあり、わかりやすい。説明がわかりやすい。 ・子どもと来ました。興味しいいで見ていてかわいく……。魚も丁寧に飼育されているのが感じられとても気分が良いです。これからも研究等がんばって下さい。応援しています。 ・前回友人と生物観察で公園利用した際、営業時間内だったので立ち寄ったのですがゲンゴロウがとても気に入りました。 ・大阪から淡水魚好きの息子の希望で来ました。小さいながらも素晴らしい展示でした。サルミンコーラの事は全く知りませんでした。勉強になりました。ありがとうございました！ ・無料とは思えないほど様々なサケ・マス類の魚やその他の生物を展示していて楽しめました。また来ます。 ・元々情報として知ってはいたのですが、休日は混雑しており、中々訪れる機会がなかったのですが、今回はようやく訪問できました！本当に無料なのか？と思うほど情報量が多くとても有意義な時間を過ごすことができました。今回は一人での訪問でしたが、次回以降は友人や彼女を連れてまた利用しようと思います！ 【対応】 ・今後もお客様が楽しく見学して頂けるように、丁寧な分かりやすい説明を心掛け、満足して頂けるように努める。		全ての満足度が要求水準を10ポイント以上超える高い数値となっていることは、スタッフの豊富な知識に基づく丁寧な対応や、日頃の心掛け、創意工夫によるものであると評価します。引き続き、様々な利用者層に満足いただけるようなきめ細やかな対応、充実した企画運営などに努めてください。			

4 収支状況								
▽ 収支				(千円)				
項目	R7年度計画	R7年度決算	差(決算-計画)					
収入	44,999	46,507	1,508		自主事業のエサやりは、小さい子どもでも簡単にできる体験のため、無料体験のない日でもエサやりができるよう販売しており、利用者に大変好評であった。今後も販売を継続し、収支と利用者サービスの向上に努めていく。 今後も各作業・事業内容ともに検証を続け、一層の効率化を図るなど、安定した公園経営と適切な維持管理運営に努めたい。			
指定管理業務収入	42,588	43,018	430					
指定管理費	42,588	42,943	355					
利用料金	0	0	0					
その他	0	75	75					
自主事業収入	2,411	3,489	1,078					
支出	44,809	49,410	4,601					
指定管理業務支出	43,662	46,117	2,455					
自主事業支出	1,147	3,293	2,146					
収入-支出	190	▲ 2,903	▲ 3,093					
利益還元	0	0	0		売店やエサやり販売などの自主事業において主体的に収益を上げ、施設運営費の補填に貢献している点を評価します。今後も可能な限り経費の削減に努め、利用者ニーズに沿う収支バランスに努めてください。			
法人税等	190	83	▲ 107					
純利益	0	▲ 2,986	▲ 2,986					
▽ 説明								
▼ 指定管理費収入について、「札幌市都市公園の維持管理に関する協定における費用見直し等に関する確認書(電気料金)」により355千円の増となった。 ▼ その他収入は、受取寄附金収入75千円による。 ▼ 自主事業収入は、イベントや売店収入が好調により、計画より1,078千円の増となった。 ▼ 指定管理業務支出は、光熱水費の高騰や人件費の増加に伴い、計画より2,455千円の増となった。 ▼ 自主事業支出は、自主公益事業への繰入が増加のため、計画より2,146千円の増となった。 ▼ 利益還元については、公益法人の特質上、協会全体として収益の約半分を公益事業に繰り入れている。								

< 確認項目 > ※評価項目ではありません。					
▽ 安定経営能力の維持				適	不適
▼札幌市公園緑化協会の財務状況等は、令和7年度、赤字決算となり、運営安定化積立資産も取り崩すこととなった。次年度以降、なお一層の経費節減が求められるものの、自主事業の好調を引き続き継続し、経営能力の安定化を図っていく。また、他の構成企業についても、前年度から大きな変化はなく、安定経営能力に問題はない。					
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応				適	不適
▼各条例の規定に則り、全て適切に対応した。 ▼情報公開請求はなかった。 ▼当公園の管理等に係るオンブズマンの実地調査はなかった。 ▼公園使用者に対する告知として、暴力団活動や暴力団の資金源となる活動に公園を使用できない旨の文書を園内に掲示した。 ▼物品購入や業務の委託等に際して、暴力団員や暴力団関係事業者を相手方としないよう徹底した。					

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	次年度以降の重点取組事項
大きな問題もなく、お客様の安全を最優先に施設の管理運営を行うことができた。 井戸ポンプ(No.1)の故障については、井戸ポンプ(No.2)が正常に稼働していたことから、各水槽への給水量を適切に調整し、飼育魚への影響を最小限に抑えつつ対応し、問題なくポンプの交換を実施することができた。 「知る見るカニさんザリガニさん」では、従来実施していたアメリカザリガニに触れるタッチプールに加え、動物福祉の観点を踏まえた内容へと見直しを行った。参加者自身が個体を選び体長測定を行う形式とすることで、単なる触れ合いにとどまらず、計測方法や生物の特徴について学べる機会を提供した。また、市環境共生担当課及び環境省北海道地方環境事務所と連携し、在来種および外来種に関する普及啓発を実施した。また、「知る見るカエルさん」では、カエルに直接触れることはできないものの、机上に水槽を設置して間近で観察できる環境を整えた。加えて、小さな子ども向けにはお絵描きコーナーを設け、高学年の子どもには成体・オタマジャクシ・卵に関するクイズを実施するなど、年齢に応じた学習機会を提供することができた。 利用促進の取組として、今年度より初めてサンビアザ水族館で開催された「両生類を知ろう!!」に参加し、両生類の紹介に加えてさけ科学館のPR活動を実施した。本取組により、当館ではサケのみならず多様な水生生物を観察できることを来場者に伝えることができ、好評を得た。 「さかなウォッチング」では、参加者からの評価が非常に高く、満足度は全て100%であった。 「さっぽろサケフェスタ2025」においては、今年度からの連携事業としてサンビアザ水族館の協力を得て、同館で展示されている古代魚の出張展示を実施した。通常当館では見ることのできない魚類の展示であったことから来館者の関心を集め、好評を得るとともに、両館のPRIにつながる取組となった。 11月15日・22日・29日に開催した「サケの人工授精体験」には計140名が参加し、その多くが親子連れであった。普段は見ることのできない採卵の様子を間近で観察できるとともに、参加者自身が卵に触れる体験を通じて理解を深める機会となり、「貴重な体験ができた」との声が多く寄せられた(満足度96.9%、回答数130件)。 「サケの発眼卵」及び「サケの赤ちゃん」の展示において、来館者から「間近で観察できて良い」との評価を得た。また、「サケ稚魚の群泳」展示についても同様に好評であった。 「札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム2026～今どうなっている？気候変動の影響を受けるサケマスたち～」では、近年顕著となっている気候変動がサケマスに与える影響について紹介した。フォーラムでは、厳しい環境下における課題の共有に加え、将来に向けた展望や私たちにできる取組について活発な意見交換が行われた。学生によるポスター発表では、サクラマスの産卵環境改善や観察手法に関する提案がなされ、市民調査「みんなでサケさがそ！2025」の紹介やフォトコンテスト表彰も実施された。これらの取組に対し、参加者からは世代を問わず参加できる充実した内容であるとの高い評価を得た。	今後もお客様のことを第一と考えて、安全・快適に見学してもらえるように、施設管理運営を実施していく。 設備の故障の際は、慌てずに状況を見極め、最善の対処をするように今後も気を付ける。 「知る見るカニさんザリガニさん」等の生き物に触れるイベントの際は、動物福祉の観点を踏まえた内容へ今後も検討し、ただ触るだけでなく、測定方法や使用器具等を学べ、今後役立つ知識を身に付けてもらえるように工夫してイベントを行うようにする。 「サケの人工授精体験」等の各種イベントは高評価であったが、今後についてもお客様が楽しく学べ、サケや河川環境に目を向けてもらえるイベントを実施していく。 初めて実施したサンビアザ水族館との連携事業を、今後も継続して実施し、お互いの長所を生かしてお客様に楽しんで頂けるイベントを開催し利用促進に努める。また、今後もお互いの施設PRのためパンフレット(サンビアザ水族館・AOAO水族館配布中)を置き、利用促進に努める。 さかなウォッチングは、札幌の水辺の生き物を知ってもらい、河川環境にも目を向けてもらえるイベントのため、今後も継続して行い内容を充実させるように努める。 「札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム」では、たくさんの来場者に、サケの取り巻く環境について普及啓発することができた。今後も豊平川のサケを考えてもらえるように内容を考えて実施していく。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
全般について要求水準を上回っており、安定した管理運営が行われています。特に、従来のイベント内容に創意工夫を凝らしたことや、外部との連携、そして丁寧な接遇・解説が、利用者からの高い満足度へと繋がっているものと評価します。 今後も環境教育の場として、幅広い利用者層に親しまれる施設を目指し、より一層の情報発信や企画展等を含む新規事業の検討に努めてください。	上記の所管局評価を参照してください。